

補習校だより

2016年11月22日発行



今年の秋は暖かく、雨も少ないと思っていた矢先、テヘランでも初雪が降りました。アルボルズ山脈の雪景色もこれから美しくなってゆく事でしょう。いっきに秋から冬へ季節が変わった様に感じますが、日本で暦はもうすぐ師走、年末も近付いています。

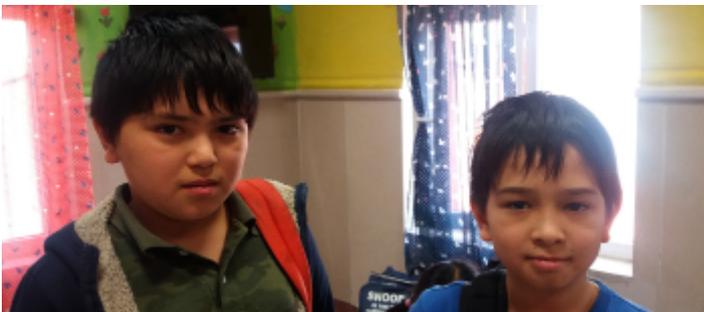
最近は大気汚染がひどい日が続いていました。こまめに手洗い、うがい、目の洗浄などをして健康に気をつけましょう。

今月（アーザル月）の予定

第8回目授業	11月24日（木）	通常授業
	12月1日（木）	休校
第9回目授業	12月8日（木）	通常授業
第10回目授業	12月15日（木）	通常授業

新しいおともだち

小林駿主（スルシュ）くん 小林紗也（シャーヤン）くん



弟の紗也くんの好きなことはパズル、兄の駿主くんは最近いろいろな事に意欲的で、日本語の勉強を始める事にしました。イランの学校と日本語の勉強の両立は大変ですが、がんばっていきましょう！

新しい先生と中学部の紹介

準備中だった中学部が11月17日より始まりました。
藤塚彩加先生のご指導のもと、三星茂奈さんとモラディマティン君で隔週の授業を行っていきます。

藤塚先生に自己紹介していただきました。

「7月よりイランに来ました。初めての海外生活で、初めて教壇に立たせていただきます。がんばります！」
よろしくお願ひします。



イベント参加報告

＜日本人学校 交流授業に参加しました＞

11月3日（木）にテヘラン日本人学校での交流授業に、補習校児童生徒が参加しました。ならびに補習校保護者も授業の様子を参観いたしました。

授業内容は、始めの1時限は道徳、次は国語または理科、社会を2学年ずつに分かれ日本人学校の児童・生徒と一緒に勉強しました。最後の1時限では1・2年生は音楽、3年生以上は体育の授業でした。

今まで日本人学校の行事にいろいろと参加させていただいていましたが、日本人学校生と補習校生と一緒に日本語の授業を受けたのは初めての試みでした。多くの補習校生が参加し、勉強を通してこども同士が親睦を深めるよい機会になりました。

○補習校生からの感想○

- ・ 休み時間に日本人学校の生徒と思いきり外で鬼ごっこをしたのが楽しかった。
- ・ ソーラン節を初めて踊ったけれど、次の日、体が痛くて驚いた。

- ・ 国語の授業の内容が、補習校で勉強する内容と違いおもしろかった。
- ・ 日本のお正月のおせち料理の意味を初めて知った。
- ・ 新しいお友達ができてうれしかった。
- ・ 授業で歌をたくさん歌えて楽しかった。

<日本人学校 学習発表会に参加しました>

11月18日（金）にテヘラン日本人学校での学習発表会に補習校有志とセタレ音楽教室有志で参加いたしました。

今年の日本人学校の発表も素晴らしく、オープニングでの「さくらさくら」の歌と琴の発表に続き、3部構成の劇『白瑠璃椀物語』、英語スピーチコンテスト、「戦争と平和」プレゼンテーションととても内容が濃いものでした。そのなかでも劇『白瑠璃椀物語』での日本人学校児童・生徒たちの熱がこもった演技は観客を魅了する素晴らしい出来栄でした。見学した補習校生も集中して観ていて、同世代の子達が頑張る姿により刺激を受けた事でしょう。

補習校生は毎週木曜日、授業の休み時間や、各自で練習してきた校歌を発表しました。それぞれ練習の成果が発揮できました。ピアノ演奏の鈴木似奈さんとダフの会、オカリナ部の応援もあり、補習校らしい楽しい発表になりました。



コラム

「日本人学校交流授業を終えて ～海をこえて伝えられる日本の道徳～」

教員 水越里絵

交流授業前に知らされていた時間割表で2時間目は全学年、道徳になっているのを見たときから楽しみにしていました。

時間の関係で、1・2年生と5・6年生の授業しか参観できなかったのですが、特に小谷先生の1・2年生の授業が興味深かったです。

題材に使われていたのは、1・2年生の道徳の教科書から「およげないりすさん」。あひるさん、かめさん、白鳥さんが、川向こうの島にある公園に遊びに行く相談をしているのですが、そこへ、りすさんも一緒に行きたがります。でも、泳げないりすさんを連れて行ってくれません。みんなは、りすさんを残して遊びに行きますが、楽しく遊べません。そこで、やはり戻って、今度はりすさんをかめさんの背中に乗せて、一緒に島に連れて行きます。そして、みなで楽しく遊びました、というお話でした。

ここで、日本人学校のお友達も、補習校の子どもたちも、みな一人ずつ、りすくんの役をやっていくことになります。

「ぼくも、連れて行ってー。」というりすくん役の子に対して、みな他の子たちは、「だめー、だって、りすくんは泳げないでしょう。」と言うのです。そして、その時のりすくんの気持ちを聞いていくのです。参観されていた方はお分かりでしょうか、果たして、どんな答えが返ってきたのでしょうか？

ご想像通り（私も例にもれず）「悲しかったー。」「涙が出そうだったー。」という答え。でも、これは一般的な日本人の想像する返答だったんだ、と思わされる場面がやってくるのです。

一人の補習校生徒の順番がきます。彼はこう言いました。「少しは悲しいけれど、でも別に行かれなくても、それはそれでかまわない。」と。私からしたら、まさか、の答えでした。

では、こう答えた子に対する、みなへの反応はどうだったのでしょうか。冷ややかな反応？無反応？いいえ、そうではなかったのです。最初に口火を切ったのは、日本人学校の何人かのお友達でした。

「〇〇くんは、心が強いんだねー。」「すごーい。」という暖かい言葉だったのです。

これぞ、日本の道徳だ！！と、日本人のもっとも日本人らしいところを久々に目の当たりにした瞬間でした。

もし、ここがイラン人の子供たちの集まっている場だったら、このような反応は見られなかったのではないのでしょうか。私が12年近くこの国に暮らした経験から言えば、イラン人はあまり人を素直にほめません。明らかに、みなと違う答えをした子に対して、このような暖かい言葉は返ってはこなかったでしょう。

イランにも小学3年生から「エジュテモイ」という日本の社会にあたる科目があります。この中で、日本の道徳にあたる内容が単元として設けられています。

日本人とはまた違う人への暖かさなど、イラン人のよさもたくさんあります。

道徳という人が生きていくうえで基本になることを教えてくれる教科。この道徳を交流授業に組み込んでくださったことに本当に感謝しております。日本の道徳、イランの道徳、両方に触れることで得ることが、きっとあると思います。

今回の交流授業は、そういった意味でも補習校の子どもたちにとって、大変よい経験になりました。本当にありがとうございました。

お詫びと訂正

前回の補習校だよりにて、補習校のホームページができたこととお知らせしましたが、アドレスを間違えて載せていました。ご迷惑をお掛けした事をお詫びいたします。正しくは以下のアドレスになります。

テヘラン日本語補習校ホームページ トップ

<http://www.zenkaiken.jp/teheran/index.html>

編集後記

勉強の秋、芸術の秋、スポーツの秋、そして食欲の秋！みなさんも秋を満喫しましたか？寒くなってくると日本でもお馴染みの大根や白菜、かぶなどの野菜が店頭には並べられます。

我が家では、こども達のバイカルチャーを目指した食育(!)という名目で、たまに季節の日本食を作って楽しんでいます。バイカルチャーとは、2ヶ国語の理解(バイリンガル)だけではなく、文化面でも双方の国を理解するという意味です。でも一番楽しんでいるのは母である私(?)かも。

(鈴木淳子)